

# 未来を創る乳幼児教育

かけがわ乳幼児教育未来学会特別研究委員会 提言(概要)

H31. 3. 1

## 序章 新時代の乳幼児教育

グローバル化の進展、情報化の急速な進行によって、今日、社会の変化は加速度を増し、私たちは複雑かつ予測困難な時代に直面しています。時代を深く捉え、諸課題に的確に対応し、新しい未来を切り開いていくためには、総合的な人間力が求められています。

ほとんどの子どもが就園しており、これからの日本の将来を考えたときに、今こそ、現状の在り方でよいのかを問い直し、国の制度や教育・保育の内容を見直す時期だと考えます。

### 遊び込む

21世紀は知識基盤社会といわれます。知識や情報をいかに創造的に駆使し、課題をいかに的確に解決し、新しい世界を築いていくか、ダイナミックな思考と感性が求められています。遊びは、こうした思考と感性の基盤を形成します。遊び込む内容の深さ、密度の濃さ、多様な広がりとその有機的なつながりが人間形成の原質をつくっているからです。

### 教育・保育の質の向上

指導する幼稚園教諭や保育士、保育教諭の資質向上が課題となります。

掛川市では、掛川ならではの一体感のある新たな教育研究組織「かけがわ乳幼児教育未来学会」を設立しました。掛川の子どもたちに関わる乳幼児教育・保育関係者が、組織の枠を超えて一堂に会し、多彩な研修に取り組み始めています。

こうした資質向上と共に、職員同士の間には豊かな関係を築いて、子どもの成長の姿を常に語り合う気風を作っていくことも不可欠です。この気風は、家庭や地域に園への大きな信頼感を醸成し、園の活動全体が地域の人々の中に根を下ろしていくこととなります。幅広い研修を受けられる体制の構築は、今後の最も重要な課題となります。

### 価値観の多様化と社会の変化

価値観の多様化は、今日の際立った特徴となり、私たちの生活意識に大きな変化を与えています。地域の人たちとの関わりや自然との交歓の中で、感性や情緒、思いやりや愛情、好奇心、自己主張や自己抑制力を育むことは、人間形成の上で大切な営みです。

## 多彩なアプローチと質の公平性

地域社会の形成と発展の原動力になってきたのは、二宮尊徳の報徳思想が掛川市に古くから引き継がれてきたからです。「以德報徳」の思想や、「積小為大」、「至誠・勤労・分度・推譲」などの考え方によって、個人と社会の間に有機的なつながりが生みだされてきました。

小学校就学前の教育・保育の施設については、幼稚園、保育所、認定こども園、小規模保育事業所等、多様化が進んでおり、教育や保育の内容がそれぞれの園によって異なっています。国民は「その能力に応じてひとしく教育を受ける権利がある」と憲法にありますが、就学前教育においては、まだまだ質の公平性は実現されていません。

## 乳幼児教育の無償化、義務化

乳幼児教育の無償化は、保護者が就労しやすくする条件整備、働き方改革、子どもの貧困率の問題、等々の問題と関連し、乳幼児教育の無償化は喫緊の課題となっています。

義務化について、子どものことを主体として第一に考え、今後、深く議論しながら進めていかなければなりません。

## 第1章 現在の概況

掛川市における乳幼児教育・保育の現状について就園率、施設の状況を概観

## 第2章 掛川における乳幼児教育・保育の展開

掛川市は、市民に深く根付いている生涯学習の理念や報徳の教えをもとに、掛川ならではの独自の教育の推進を図ってきました。その特徴として次の5点があげられます。

- 中学校区学園化構想
- かけがわ乳幼児教育未来学会
- 愛着形成プログラム
- アクティブ・チャイルド・プログラム
- 支援を要する子たちへの取組

## 第3章 無償化に関する状況

- 先進諸国との比較
- 国の保育料に関する段階的無償化政策
- 問題点
  - (1) 無償化の財源
  - (2) 公平性のある無償化

## 第4章 義務化に関する状況

- 先進国の状況
- 文部科学省における議論
- 問題点

ほとんどの5歳児が就園している状況にもかかわらず、社会全体における、義務化についての議論は、まだまだ少ない。

## 第5章 提言

現在の実情を踏まえ、無償化、義務化に関する状況から、時代の求める課題として、「掛川らしさ」特色ある乳幼児教育・保育のさらなる広がりと深化を期待し、今後の進むべき方向を次のように提言します。

### 1 教育・保育内容の新しい研究

#### (1) 教育要領と保育指針、教育・保育要領の一元化

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領など、制度に応じた基準が定められているなか、子どもたちへの公平性を考えると、発達を捉え教育・保育を進めるために、指導する側にもわかりやすい一貫した教育要領の一本化が必要であると考えます。

制度や所管行政庁を一つにし、義務化・無償化すると同時に、これらの基準も一元化することによって、どの子どもにも等しい教育・保育が保証されます。0～5歳児を乳幼児教育として年齢に応じた分かりやすい基準を作るよう提言します

#### (2) 教育・保育内容の充実

- ① 子どもの自発的な遊び
- ② 文化芸術への触発
- ③ 社会の人々とのふれあい

#### (3) 自然や田畑等ではたらく体験、生活や遊びの中ではたらく体験

子どもたちは、生活を共にするなかで多くの活動に取り組んでいます。そこには、多様な体験・学びの場があります。それらをあらためて「はたらく体験」ととらえ、生きる力の育成につなげていくことが掛川のあたらしい特色になります。報徳の教えである「至誠・勤労・分度・推譲」にもつながります。

### 2 行政の一元化と「こども省」の創設

- (1) 省庁の区分の複雑化
- (2) 根拠法の違い
- (3) 制度の明確化
- (4) 研修体制構築への課題

多様な研修のあり方の追求や、研修時間の工夫、職員を増やし研修体制の構築を進める等、多くの課題があります。

#### (5) 一元化に向けて

これらの問題を解決するため、新たに「こども省」を創設し、一元的に全てをとらえ直し、旧来の多様な制度を一つの制度にまとめ、全ての子どもに質の高い教育・保育を行うよう提言します。

### 3 働き方改革と子育ての変革

さらに社会が成熟し、安心して子育てができる環境を求めていかなければなりません。男女共同参画社会、働き方改革、雇用主の意識改革、児童手当、子ども医療費、子育て支援制度の充実など様々な視点から施策を展開するよう求めるものです。

### 4 保護者の学びのあり方の新たな構築

最近では就労する保護者が増えたことで、保護者同士が自ら集まり、本音で話し合い、支え合い、自分たちで学び合う場ができることが理想であり、新たな保護者の学びのあり方を構築していくことが必要だと考えます。

### 5 乳幼児教育の無償化

確実な財源の保障、実務上の十分な準備期間、迅速な制度設計、幼児教育・保育の質の担保・向上を実現しなければなりません。全ての子どもが健やかに育ち、どの子にも平等な教育・保育が受けられるよう、無償化の施策を進めていくべきです。

### 6 幼児教育の義務化

現在、幼児期においては、5歳児のほとんどが就園していることから、国の責任を明確にした義務教育とする可能性が生まれています。

幼児期の教育の義務化にあたっては、客観的可能性を基礎とした実情に応じた対応を展開すべきです。